

最大29.6ポイント差。ただ「長く勉強すれば伸びる」とは言えない
。

著者	旅する書斎
所属	ARIA × STELLA × NOX × LIBER
区分	教育・学習行動の公開データ分析
対象	国立教育政策研究所・令和8年度全国学力・学習状況調査
公開日	2026-09-02
版	公開版

要旨

小学校6年生と中学校3年生の質問紙回答別に、国語・算数／数学の平均正答率を比較しました。最上位回答群と最下位回答群の単純差は14.0～29.6ポイントでしたが、平日3時間以上が常に最高ではありません。学習時間、学習計画、振り返りを分け、関連と因果の境界を示します。

キーワード
公開データ、二次分析、定義、分母、再現性、限界

1 研究目的

学習時間が長い回答群ほど平均正答率はどの程度高いのか。学習計画・振り返りの回答にも同様の段差はあるのか。そして、この集計から何を施策の効果と呼んではいけないのか。

小学校6年生と中学校3年生の質問紙回答別に、国語・算数／数学の平均正答率を比較しました。最上位回答群と最下位回答群の単純差は14.0～29.6ポイントでしたが、平日3時間以上が常に最高ではありません。学習時間、学習計画、振り返りを分け、関連と因果の境界を示します。

2 データと定義

対象期間・資料：国立教育政策研究所・令和8年度全国学力・学習状況調査

平日の学習時間を最長群と『全くしない』群で比べると、小6国語22.5ポイント、小6算数27.4ポイント、中3国語14.0ポイント、中3数学22.3ポイントの差があります。休日では、それぞれ22.2、29.6、16.8、26.2ポイントです。

順序カテゴリに対するSpearman順位相関も概ね高い値ですが、観測点は質問ごとの4または6群にすぎません。有意差検定を大量に追加せず、群平均の記述として扱います。

3 方法

1. 原表照合

公式PDFの設問23、25、32-1、32-2を画像とテキストで二重確認。

2. 分母監査

回答割合の残差を再配分せず、設問・校種別に保持。

3. 群間コントラスト

最上位回答群から最下位回答群を引いた単純差を再計算。

4. Spearman順位相関

順序回答カテゴリと群平均の単調な関係を記述。推測統計には使わない。

5. 頭打ち確認

最長時間群と次の時間群を比較し、直線的解釈を点検。

6. 別の実装

同じCSVと結果JSONから日英6図を1200×768で固定。

各方法は、分母、単位、時点、欠損、除外条件を確認してから適用しました。因果関係や将来値の推定に必要な条件がない場合、その方法は主要結果に使っていません。

4 結果

1. 休日の小6算数は、4時間以上群78.0%・学習なし群48.4%

単純差は29.6ポイントで、今回比較した国語・算数／数学12系列のうち最大です。ただし、家庭背景、もとの学力、塾利用、回答傾向を調整していません。

2. 平日3時間以上が、必ずしも最高ではない

中3国語は3時間以上群67.3%に対し、2～3時間群67.7%。中3数学も64.0%対63.1%で差は小さく、時間と得点に一つの直線関係があるとは言えません。

3. 学習計画・振り返りでも17.2～24.9ポイント差

小6の学習計画、中3の理解の振り返りに肯定的な群ほど平均正答率が高い形です。時間のほか、学習行動の設計を次の調査対象にする理由になります。

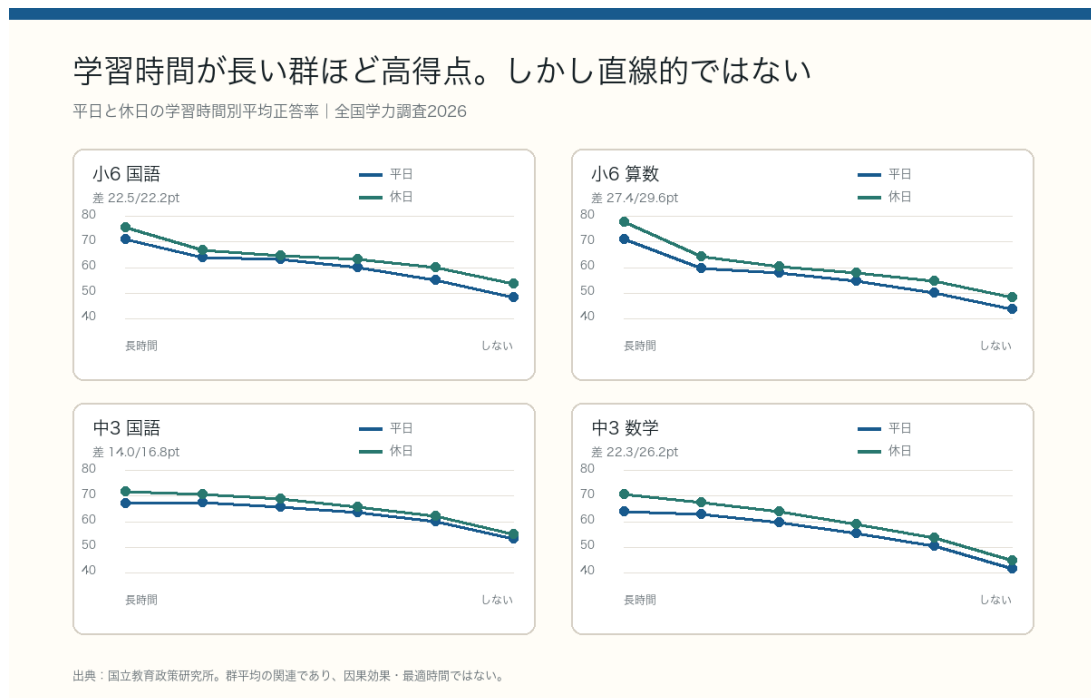


図1 図1 | 平日・休日の学習時間と平均正答率

長時間群ほど高い形ですが、中3平日の最上位二群には頭打ちや逆転があります。

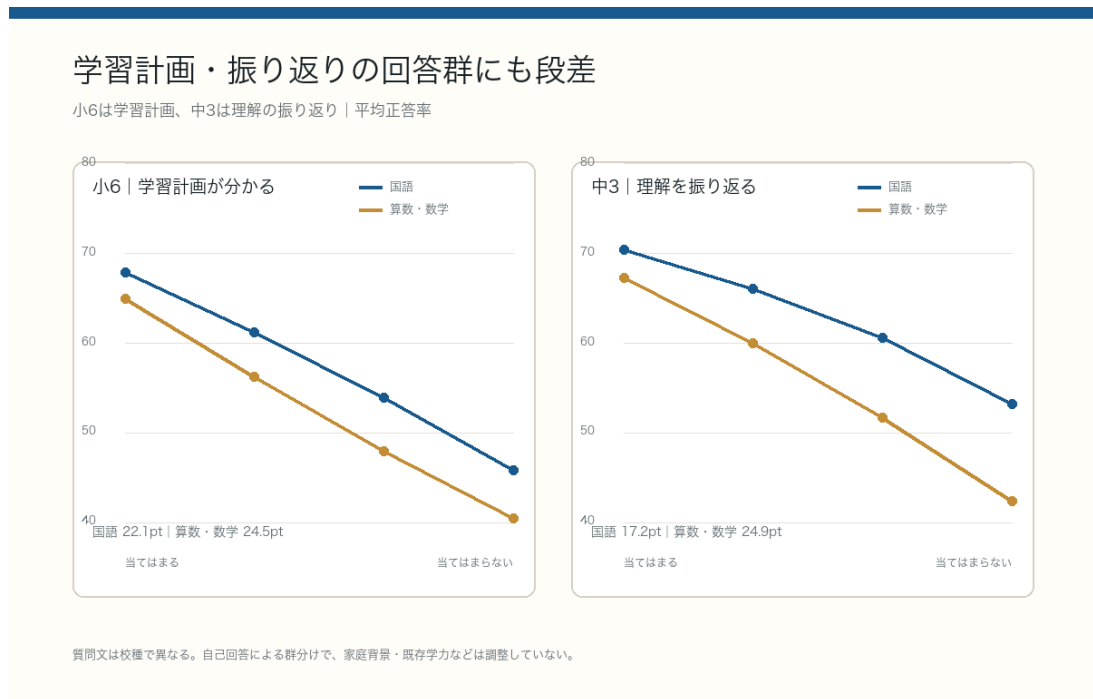


図2 図2 | 学習計画・振り返りと平均正答率
時間以外の学習行動にも段差がありますが、質問は校種で異なります。

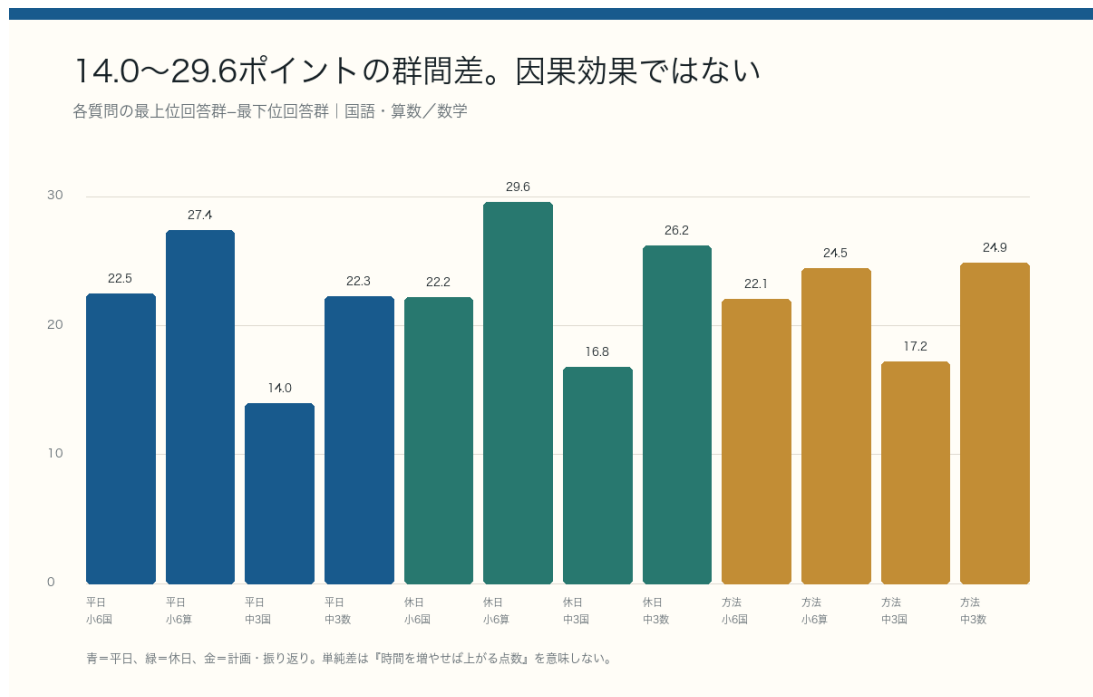


図3 図3 | 最上位・最下位回答群の単純差
14.0～29.6ポイントは処置効果ではなく、公開集計上の単純差です。

5 考察

2 | 『長いほど必ず高い』という直線ではない

中3国語の平日は、3時間以上群67.3%より2～3時間群67.7%が0.4ポイント高くなっています。中3数学は3時間以上群が0.9ポイント高いだけです。最上位二群の順番は科目で異なり、最適時間を一点で示す結果ではありません。

長時間群には、学習意欲、家庭の支援、塾・家庭教師の利用、学習内容、健康状態などの違いが含まれます。逆に、学習に困難があるため時間が長くなる可能性もあります。集計表だけでは方向を決められません。

3 | 時間のほか、学習計画と振り返りを分けて見る

小6では『学習の計画の立て方や学び方が分かる』への回答別に、肯定群と否定群の差が国語22.1ポイント、算数24.5ポイントでした。中3の『理解したかを確認するために学習を振り返る』では、国語17.2ポイント、数学24.9ポイントです。

小6と中3では質問文が異なるため、同じ尺度として校種間を比較しません。ただし、教育サービスが『時間を増やす』のほか、計画、理解確認、間違いやすい点の特定を別の機能として測る必要性は見えます。

4 | 人数構成を見ないと、支援対象を誤る

平日1時間以上学習すると答えた割合は小6で50.4%、中3で61.8%です。それに対して、学習計画への肯定回答は小6で79.3%、振り返りへの肯定回答は中3で64.6%でした。得点差の大きさのほか、各群がどの程度いるかを併記します。

公表値の合計は無回答などにより100%と一致しない場合があります。残差を勝手に既存カテゴリへ配分せず、公開値のまま保存しました。

5 | 会議では『何時間増やすか』の前に、四つを決める

まず、対象を小6・中3や科目で分けます。また、時間、学習内容、計画、振り返りを別々に記録します。さらに、開始前の理解度と家庭・学校外学習の条件を確認しています。第四に、正答率のほか、継続、負担、睡眠、間違いやすい点の解消も追います。

この設計なら、公開集計を『長時間学習の推奨』へ短絡させず、どの支援が誰に必要なかを検証する小規模実験へ接続できます。

6 | この結果から言えないこと

この分析は個票を使っておらず、同じ児童生徒を時間経過で追跡していません。学習時間を増やしたときの得点上昇、塾や教材の効果、最適な学習時間、学校・地域の優劣は推定していません。

最上位群と最下位群の差は分かりやすい要約ですが、処置効果ではありません。記事と図表では必ず『群間の単純差』『関連』と表記します。

7 | 原表、抽出値、再計算を同じ資料に残す

国立教育政策研究所のクロス分析PDFから、設問23、25、32-1、32-2の回答割合と平均正答率を抽出し、32行のCSVへ固定しました。群間差、順位相関、回答割合の合算、最上位二群の差を結果JSONへ保存しています。

原本PDF二つのSHA-256、公式URL、使用した処理、解釈境界を実行記録に残しました。記事、日英6図、研究報告書、1ページ要約は同じ抽出値を参照します。

6 限界

1. 限界1

個票ではなく、公表された回答群別平均の二次分析です。

2. 限界2

家庭背景、既存学力、塾利用、学習内容、健康・睡眠を調整していません。

3. 限界3

自己回答には記憶、社会的望ましさ、回答傾向による誤差があり得ます。

4. 限界4

学習時間の増加、教材、塾、学校施策の因果効果や最適時間を推定していません。

7 結論

学習時間の長い回答群ほど平均正答率が高い傾向は、平日・休日、小6・中3、国語・算数／数学で一貫して見えます。しかし、最長群が常に最高ではなく、群間差には家庭背景や既存学力なども含まれます。実務では『何時間増やすか』を先に決めず、時間、内容、計画、振り返り、負担を分け、開始前後を同じ尺度で測るべきです。

次に必要なデータ

次は、学校・教育サービス向けに、学習時間・内容・計画・振り返り・睡眠・開始前理解度を5分で記録できる調査票と、4～8週間の前後比較設計へ落としします。

参考文献

1. 国立教育政策研究所：令和8年度全国学力・学習状況調査 報告書。 [https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/ \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/(nier.go.jp))
2. 質問紙調査 報告書ページ。 [https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/question.html \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/question.html (nier.go.jp))
3. 質問紙調査と学力のクロス分析 PDF。 [https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26qn_03.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26qn_03.pdf (nier.go.jp))
4. 質問紙調査 参考資料 PDF。 [https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26qn_04.pdf \(nier.go.jp\)](https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26qn_04.pdf (nier.go.jp))

付録A 再現に必要な情報

公開記事: <https://aria-stella-studio.tabisurushosai.chatgpt.site/analysis/japan-study-time-achievement-2026>

本文データ: <app/analysis/japan-study-time-achievement-2026/content.json>

分析環境: 103機能を実行確認済み。各テーマではデータ条件に合う方法だけを採用しました。

1. 原表照合

公式PDFの設問23、25、32-1、32-2を画像とテキストで二重確認。

2. 分母監査

回答割合の残差を再配分せず、設問・校種別に保持。

3. 群間コントラスト

最上位回答群から最下位回答群を引いた単純差を再計算。

4. Spearman順位相関

順序回答カテゴリと群平均の単調な関係を記述。推測統計には使わない。

5. 頭打ち確認

最長時間群と次の時間群を比較し、直線的解釈を点検。

6. 別の実装
同じCSVと結果JSONから日英6図を1200×768で固定。

付録B 集計表

表B-1 最上位回答群と最下位回答群の差

質問	校種・教科	最上位群	最下位群	差
平日時間	小6・国語	71.1%	48.6%	22.5pt
平日時間	小6・算数	71.2%	43.8%	27.4pt
平日時間	中3・国語	67.3%	53.3%	14.0pt
平日時間	中3・数学	64.0%	41.7%	22.3pt
休日時間	小6・国語	75.9%	53.7%	22.2pt
休日時間	小6・算数	78.0%	48.4%	29.6pt
休日時間	中3・国語	72.1%	55.3%	16.8pt
休日時間	中3・数学	71.0%	44.8%	26.2pt
計画・振り返り	小6・国語	67.9%	45.8%	22.1pt
計画・振り返り	小6・算数	65.0%	40.5%	24.5pt
計画・振り返り	中3・国語	70.4%	53.2%	17.2pt
計画・振り返り	中3・数学	67.3%	42.4%	24.9pt

注：最上位・最下位は質問ごとの回答カテゴリ。単位は平均正答率のポイント差。